



緑町防災かわら版

自主防災事業発表会を開催！

最終回 3月5日(日) 午後7:00より 谷地頭集会所にて

盛岡市とNPO、そして住民との協働を推進するための協働パイロット事業「自主防災のまちづくり」は、3月5日(日)の「自主防災事業発表会」で最終回を迎えました。前回までに緑町自治会の皆さまとの話し合いの中から出された課題と解決策をもとに、緑町自治会の自主防災活動を進めていくために必要なことや具体的にどう行っていくかをテーマに2回目のワークショップを開催しました。



やっぱり、ご近所で協力しないとね

いよいよ最終回です

皆で出来ることは…



ご参加の皆さま

緑町自治会 藤澤功会長

緑町自治会の皆さま

盛岡市総務部消防防災課 高橋賢一課長

同課 吉田秀次課長補佐

アジア航測(株) 菅原修盛岡支店長

同社 杉浦正美都市防災担当課長

*

NPO 法人アイディング 藤枝薫

同 甲山知苗

同 西館孝子

同 清見容子

ご協力いただいた皆さまありがとうございました

事業発表会(ワークショップ)の主な流れ

4つのグループに分かれて、自己紹介。前回出された解決策について、その役割分担を考える。

「個人・家庭で出来ること」「ご近所・皆さんで出来ること」それぞれについて実現、実行するために必要なことを考える。

出された意見を整理し、グループごとにまとめ発表。

事業全体のまとめ

本事業は、盛岡市協働推進パイロット事業で特定非営利活動法人(NPO法人)アイディングが採択され、緑町自治会の協力で地域の自主防災を推進する目的で行ったものです。第1回防災点検ウォッチングと防災勉強会(2月5日)、第2回防災検討会(2月19日)、第3回事業発表会(3月5日)と開催いたしました。

全3回の活動の様子は、アイディングのホームページでもご覧いただけます。

特定非営利活動法人アイディング ホームページ <http://www.iding.org>

*** 4 グループの検討結果 ***

今までの勉強会・話し合いの中から様々な課題とその解決策が見えてきました。最終回のワークショップでは、最初に、これまでに出示された多くの解決策を実際に誰が進めていくのか、どうやって実行に移すのか、どういふ役割分担が適当なのかを検討しました。

役割分担	個人・家庭で出来ること	ご近所の皆さんで出来ること	行政に依頼したいこと
災害への備え	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家屋の耐震強化 ・ 家族との連絡方法の確保 ・ 家具を転倒防止グッズで固定する ・ 飛散防止ガラスの設置 ・ 持ち出し品の準備 ・ 水資源の確保(消火用・飲料用等) ・ 除雪をする(冬季) ・ 路上駐車をしない ・ 普段からの隣同士の声掛け ・ 定期的な避難路の確認と周知 ・ 逃げやすい出口の確保 ・ 救護班を結成 ・ 避難が困難な者への援助 ・ 応急処置の修得 ・ 防災訓練、災害時の体験実習等の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日頃から隣近所のコミュニケーションを図る ・ 定期的な避難路の確認と周知 ・ 災害弱者の情報を事前に把握しておく ・ 家族との連絡方法の確保 ・ 各班で1次避難場所を決める ・ 各班で避難誘導班を組織する ・ 消火班とバケツ班を組織する ・ 避難が困難な者への援助(救護班をつくる) ・ 連絡板の設置 ・ 家具を転倒防止グッズで固定する ・ 除雪をする(冬季) ・ 路上駐車をしない(させない) ・ 水資源の確保(消火用・飲料用等) ・ 避難場所の鍵を誰かが持っているようにする ・ 防災訓練、災害時の体験実習等の実施 ・ 応急処置の修得 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 応急処置の修得 ・ 避難勧告と連絡の徹底(ラジオでの情報提供、防災無線の設置) ・ 防災訓練、災害時の体験実習等の実施 ・ 水資源の確保(消火用) ・ 定期的な避難路の確認と周知(広報) ・ 救急診療所の設置 ・ 災害弱者の情報を事前に把握しておく ・ 連絡板の設置 ・ 路上駐車をさせない ・ 避難所の鍵を誰かが持っているようにする
(災害時) 避難所まで		<ul style="list-style-type: none"> ・ 班毎に一時集まり、居ない方との連絡をとる ・ 避難勧告と連絡の徹底 ・ 1次避難場所に集まり、班毎に確認しあう ・ 隣同士の声掛け ・ 各班で避難誘導班を組織する ・ 避難が困難な者への援助(救護班作る) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難勧告と連絡の徹底
避難所で	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水資源の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 炊き出しの実施 ・ 自治会で救護班を作る ・ 連絡板の設置 ・ 避難所の鍵を誰かが持っているようにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 救急診療所の設置 ・ 炊き出しの実施 ・ 避難所の鍵を誰かが持っているようにする

本事業のお問合せ:特定非営利活動法人アイディング 盛岡市仙北三丁目 21 6 tel:635-4416 fax:636-0284

e-mail : info@iding.org ホームページ: <http://www.iding.org>

アイディングは、元気なまちづくりを応援しています!



それぞれの解決策に対する役割分担を検討した後、自分たちで出来ること、すべきことについて必要なことをまとめ、グループごとに発表しました。

解決策実行の為に必要なこと

<p>災害への備え</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 持ち出し品を準備しておく(水、防災器具、拡声器) ・ 専門家の意見を聞き知識を得る(耐震、家具の転倒防止等) ・ 防災訓練や講座を実施し、参加する。 ・ 災害に関するチラシを作成し、意識啓発をする(全戸配布) ・ 非常時に使用できる井戸の調査(水質、使用の不可) ・ 防災無線の設置やハンドマイク(拡声器)の備え。 ・ 町内防災マップの作成(1次避難場所、指定避難場所、非常時の電話、使用可能な井戸等) ・ 駐在所や避難場所等との連携を整えておく ・ 各班ごとに1次避難場所を選定 ・ 各班ごとに緊急連絡網を作成する ・ 各班で災害弱者を把握し、希望者は家族の連絡先を教えておく ・ 各班で見守り班(救護班)を作り、応急処置を学ぶ ・ 炊き出しの資材、器材の準備 ・ 行事等を活用し隣組との交流を図る ・ 隣近所で声かけをして交流を深める ・ 班単位で除雪をする(冬季)
<p>災害時</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各班で連絡板を作る ・ 他機関との連携 ・ 即席救護班の結成

災害関係の講座を開いて勉強する必要があるんじゃないかなあ。



ポンプ式の掘り井戸が非常時に役立つよね。地域の災害マップが欲しい。



各班ごとに、連絡板を作って日頃からどんどん活用しましょう。



地域の行事に参加してコミュニケーションを図ることが重要だね。



皆さまお疲れさまでした！

2月5日(日)より3回にわたる勉強会にご参加いただきありがとうございました。残念ながらご参加いただけなかった皆さまにもこのかわら版を通して活動の様子をご理解いただければ幸いです。

2月5日(日) 14:00～、19:00～

2月19日(日)19:00～

3月5日(日)19:00～

「防災点検ウォッチング」

「防災勉強会」

中越地震災害救援報告

盛岡市消防防災課 吉田課長補佐

厨川地区の災害の可能性

アジア航測(株)

杉浦都市防災担当課長

「防災検討会」

何が心配？どうしたらいい？

具体的な問題とその解決方法についてワークショップを開催

ワークショップとは、グループワークに舵取り役を置き、より良い課題解決を図ろうとする一つの手法です。

「防災事業発表会」

誰がやる？何が必要？

役割分担と課題解決のために必要なことについてワークショップを開催

自主防災事業発表



3月5日の参加者アンケートより

参加された皆さまには、毎回、簡単なアンケートをお願いしております。いつもご協力ありがとうございます。最終回は全体の感想もお聞きしました。

- ・防災、災害に対する考えは、地域(町内会)、各個人に周知の徹底し多くの町民が参加するように努力する必要がある事を痛感した。
- ・班ごとの防災に対する心構えが大切だと思った。防災の意識が回を重ねるごとに身についた。
- ・今後の地域としての防災対策は、自治会でまとめることになるだろうが、個人としての防災意識は高まった。
- ・出席者がだんだん少なくなったのは残念だ。

- ・自分で何をしなければならないか、確認できたのはタメになった。また、近所の話し合いも大切だと感じている。
- ・防災アンケート等で町内の住民の心配等が良く分かり、今後の参考になった。具体化するには、まだ検討が必要と思うので、町内会で検討することにする。
- ・都合がつかず1回の参加で残念だった。
- ・かわら版をみて確認しているの、3回目もかわら版を御願います。

アジア航測(株) 関東防災地質部杉浦正美さんより

緑町自治会のみなさん、3回にわたるワークショップへの参加、本当にお疲れ様でした。3月5日(第3回)にもお話ししましたが、みなさんの熱心な討議を拝見して、改めて防災への関心の高さを感じることができました。討議の内容については、現状への不満や行政への希望・期待よりも、自分や家族それにご近所で何ができるかに重きを置いた前向きなものが多く、これまでの行政からのお仕着せの防災情報に比べて、緑町自治会の地域性を踏まえた、有益な内容をたくさん含んでいたと思います。ここで話し合われた有益な「知恵」を寝かせてはもったいないです。災害の発生は「非日常」の出来事ですが、それへの備えは「日常」の中で育てていかなければなりません。地震は人為で止めることはできませんが、それによる被害は、日常の備えの中で確実に減らすことができるのです。

最終日のグループワークの発表では、期せずして、みなさんの意見が同じ方法に向かっていたかと思います。防災は「自分の身は自分で守る」(自助)が如何に大切

かを改めて教えていただきました。「災害に強い緑町自治会」に向けた、ますますの活動を期待いたします。

盛岡市総務部消防防災課長 高橋賢一さんより

NPO法人アイディングとの協働推進パイロット事業として、緑町自治会の藤澤会長をはじめ、地域の多くの皆様方のご参加をいただき、3回にわたる自主防災のまちづくり事業を盛況のうちに終了することができました。

企画・運営の主体をアイディングにお願いし、市民の皆様が目線で事業を進めることができたと感じております。ワークショップでは、時間が短く感じられるほど、活発、熱心な話し合いが持たれ、地域ならではの視点により、防災の課題等について具体的に深く掘り下げていただきました。

今回の取組みを契機として、「顔と顔が見える地域の良きコミュニケーション」を基本とした自主防災組織が、緑町自治会に大きく花開くことを願っております。いつ起こるかわからない災害に備えて、「できることから、実行」を各家庭と地域で実践していただきたいと思います。